
避難所での支援を通して見えてきた課題

(伊藤ゆかりほか、ナース発 東日本大震災大震災レポート、2011、p.77-86)

2015年12月11日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

1. 避難所での支援を通して見えてきた課題 認定看護師チームの活動から

岩手県内陸部に位置する岩手県立中部病院では、東日本大震災後、地域連携支援活動として、沿岸部の県立病院へ医師や看護師を派遣する急性期診療応援と、被災者を受け入れる後方支援を行った。災害支援ナースの募集をきっかけに当院の認定看護師（緩和ケア、感染管理、皮膚排泄ケア、摂食・嚥下障害看護）全員が災害支援ナースに登録し、認定看護師チームを結成することになった。以下にそれぞれの活動報告をまとめる。

(1)緩和ケア認定看護師

被災者の方々の思いに耳を傾ける「聴く」という行為を通して、心の痛みを少しでも和らげたいと思い、活動に参加した。被災者の方々は、悔しさ、悲しさ、不安などを語っていた。聴くことしかできないが、その思いを受け止めることが大切であると感じた。今後は、仮設住宅への入居とともに個々の生活に戻った時に、それぞれの孤独感を地域として支えていくことが大切である。

(2)感染管理認定看護師

避難所では衛生状態は万全ではなく、感染症のリスクが高い。病院とは違い、水や物資、環境等も限られているなかで、臨機応変に最善策を考え行動することが重要である。災害直後から時間の経過とともに環境は変化し、感染リスクと必要な支援も変わってくる。将来的には、災害時の感染管理を主導する専門的なチームとその支援体制を確立することが重要である。

(3)皮膚・排泄ケア認定看護師

災害後は、地域医療支援が機能停止に陥る。その状況の下で、排泄管理やスキンケア、褥瘡予防に対してどのような支援ができるのかが課題である。避難所では、適切なスキンケアや、おむつ交換に対するスタッフも知識も不足している。また、指導を行っても家永続的な介入ができないため、長期的な支援が必要である。

(4)摂食・嚥下障害看護認定看護師

避難所では肺炎が増加し、その要因として口腔内の清潔が保たれていないということがある。肺炎予防のためには、口腔ケアや唾液腺マッサージなどが大切である。避難所にいる方は、災害支援ナースが活動しているため、タイムリーな支援が行われているが、在宅では状況把握が難しく、支援の不足を感じた。

(5)まとめ

大災害の場合、情報が少ないところから迅速な支援ができないことがある。今回の経験より、さまざまな専門領域の認定看護師がチームとして活動することで、多角的視点か

ら問題を抽出し、協力して質の高い支援を行うことが可能になると思われる。

2. 「魔法の白衣」に後押しされて 東日本大震災体験談

東日本大震災では、患者さんも職員も多くの方が被災した。不安な毎日の中、看護師として自分に何ができるのか考えた。白衣を着ると、「しっかりしなさい」と言われているようで勇気がわいてきた。看護師として活動できることに誇りを持ち、今後も看護活動を続けていきたい。

3. 考察

大災害時には、地域の医療体制は崩れ、限られた資源での医療が必要となる。今回読んだテーマは東日本大震災だったが、将来は愛媛県でも大きな地震が起きる可能性がある。その時にどういう支援ができるのか、考えておく必要がある。1の体験談では、認定看護師がチームで活動することで、多角的な支援に成功したということだった。認定看護師になど、様々な専門家がチームをつくり、活動することで、多角的な支援が可能になると思われる。また、長期的な介護やストレスケアなど課題はたくさんある。災害によってケースは異なると思うが、継続的な支援が必要であり、それは今後の課題である。どの専門分野にしても、災害時の最大のリソースは人であり、災害時医療の専門チームとその支援体制を確立することが重要である。